

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】
H I V検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究
(分担)研究報告書

性産業に従事する MSM とトランスジェンダーの実態調査と受検勧奨

＜東京における A 型肝炎の流行対策による、
MSM へ向けた性感染流行の迅速な啓発方法の検討＞

研究分担者 : 今村 顕史 (がん・感染症センター都立駒込病院)
研究協力者 : 砂川 秀樹 (明治学院大学国際平和研究所)
生島 嗣 (特定非営利活動法人ふれいす東京)
荒木 順子 (特定非営利活動法人 akta)
カエベタ 亜矢 (新宿区保健所 保健予防課)
堅多 敦子 (東京都福祉保健局健康安全部エイズ・新興感染症担当課)

研究要旨

性感染症の流行する環境は時代とともに大きく変化してきており、その多くの情報が、雑誌、ウェブページ、SNS 等で、より広く急速に発信されるようになっている。従って、現代の環境に合ったハイリスク層への情報提供法の確立は、性感染症の啓発や受検勧奨における喫緊の課題の一つと考えられている。

本研究では、東京を中心とした MSM の、A 型肝炎の流行への緊急対策を行った。その計画を進める中で、行政担当者、保健所、そして各 NPO 等との協力によって、医学的情報や具体的な感染予防策などを、より迅速にハイリスク層へ伝える方法を検討することができた。

性感染症の流行拡大への緊急対応としては、情報伝達の迅速性が重要な課題であった。その一方で、便を介して性行為で感染するという A 型肝炎の情報を伝える際には、ゲイバッシングにつながるリスクも念頭におき、ハイリスク層へ集中して情報が流れるような配慮も必要とされた。従って、この A 型肝炎の流行対策においては、一般的な感染症の流行への対応以上に、現場コミュニティーと繋がっている NPO 等との密接な連携が重要なポイントとなった。

対象に合った情報をまとめたチラシ等の作成、ホームページ・スマホアプリ・SNS 等を利用した情報拡大など、今回の対策によって確立された啓発方法は、MSM における今後の性感染流行においても、ハイリスク層へ集中的に、かつ迅速に啓発情報を提供するための対策として役立つものとなるだろう。

A.研究目的

性感染症の流行する環境は時代とともに大きく変化してきており、その多くの情報が、雑誌、ウェブページ、SNS 等で、より広く急速に発信されるようになっている。従って、現代の環境に合ったハイリスク層への情報提供法の確立は、性感染症の啓発や受検勧奨における喫緊の課題の一つと考えられている。

現在、東京を中心とした MSM (Men who have Sex with Men) の中での、性行為による A 型肝炎の流行が大きな問題となっている。複数の拠点病院に通院している HIV 陽性者からの、A 型肝炎の発生報告が急増してきたため、東京都からもアラートが出されることとなった。本研究では、この A 型肝炎流行への緊急対応によって、現代の環

境に合った対策を、行政やNPOとの連携によって検討する。そして、性感染症の医学的な情報、感染予防策などを、より迅速にハイリスク層へ伝えるために有効な方法を確立することを目指す。

B.研究方法

本分担研究は、東京都におけるMSMのA型肝炎流行に対して、東京都福祉保健局健康安全部のエイズ担当、都内流行地の保健所、ふれいす東京、コミュニティーセンターaktaとの協力によって計画された。

A型肝炎の流行や対策に関する情報を提供するために、チラシ等の資料作成、資料の配付先の決定、そしてホームページ・スマホアプリ・SNS等を利用した情報拡大など、ハイリスク層であるMSMへ、広く迅速に情報を提供できる方法を検討した。また、東京都との連携によって、拠点病院や保健所・検査所への情報提供も行った。これらの啓発活動は、本報告書の作成時点でも継続中であり、ホームページやスマホアプリ等については、そのアクセス評価も行う予定である。

(倫理面への配慮)

本研究によって得られた情報については、社会的な影響も考慮して慎重に扱い、対象者への迅速な還元を努めた。また、流行情報の広告を行う際にも、セクシャルマイノリティーへのバッシングに繋がるリスクも念頭におき、情報発信の範囲を広げすぎない等の注意を払って行う方針とした。

C.研究結果

東京都におけるMSMのA型肝炎流行に対する効果的な情報提供の方法が、感染症の専門医師(本研究の分担研究者)、東京都のエイズ・新興感染症担当、ふれいす東京、コミュニティーセンターaktaとの協力によって検討された。その結果、以下のような方法によって、短期間にハイリスク層へ集中した啓発広報を行う方針が決まった。これらの緊急対策による啓発は、現時点でも継続され

ている。そして、啓発に利用したホームページや、バナー広告を貼ったスマホアプリについては、そのアクセス評価も行うことを計画している。

1) 東京都による啓発チラシの作成 (図2)

東京都のエイズ・新興感染症担当が、A型肝炎の流行に関する情報を伝えるための啓発チラシを作成した。その情報をわかりやすく伝えるために、医療情報については感染症の専門医師(本研究の分担研究者)が監修を行った。作成されたチラシは、以下のような各方面に配布された。

- ・東京都のエイズ拠点病院
- ・南新宿検査・相談室、多摩地域検査・相談室における対象者へのチラシ配布
- ・各NPO法人 [ふれいす東京、コミュニティーセンター(akta)、日本HIV陽性者ネットワーク(JaNP+)、HIVと人権・情報センター(JHC)] へのチラシの送付。その後、各NPOからはSNSなどを通じての情報発信も開始された。

2) 啓発ポスターやチラシによる情報提供

- ・啓発ポスターとチラシの作成
- ・QRコードによる啓発ページへのリンク
- ・ハッテン場、街へのポスターやチラシの配布

NPOとの連携により、MSMの中でA型肝炎の流行が始まっているという情報を伝えるための啓発ポスターとチラシが作成された。(図3)ポスターやチラシの中には、下記のHIVマップにつくられたA型肝炎の特設ページにリンクさせる「QRコード」を設置した。作成されたポスターやチラシは、NPOによってハッテン場や街への配布が行われている。

3) ゲイ向けの、雑誌、スマホアプリ、ホームページを利用した情報提供

- ・WEB情報誌への広告記事の掲載
- ・HIVマップに特設ページを作成 (図4)

<http://www.hiv-map.net/hepatitis-a/>

- ・ゲイ向けサイトにバナーを貼り、啓発ページにリンクさせる
- ・MSM 向け雑誌に広告記事を掲載
- ・Facebook 等の SNS による情報の発信

ゲイ向けの雑誌、ホームページ・スマホアプリ・SNS など、ハイリスク層である MSM へ、広く迅速に情報を提供できる方法として、上記のような対応を行った。これらの医療情報については、感染症の専門医師(本研究の分担研究者)が監修を行った。各対応については、MSM の現場に密接に繋がっている NPO の積極的な協力によって進められた。また、東京都のエイズ・新興感染症担当は、各 NPO との連携や進行状況の確認等の役割も担った。

D. 考察

A 型肝炎は、一般的には食品を介しての感染するウイルス感染症として知られている。しかし、MSM を中心とした性感染症でもあるという事実を理解している人は少ない。MSM においては、性行為の中で手指を介して間接的に便が口に入る場合だけでなく、肛門周囲を直接舐める行為、あるいは多人数による性行為で男性器を舐めるオーラルセックス等によっても、A 型肝炎ウイルスが感染する可能性がある。

また、A 型肝炎に感染した人においては、発症する前からウイルスが便中に排出される。そして、2～7週間という比較長い潜伏期間で発症し、症状が改善した後もしばらくはウイルスの排出が持続する。従って、一度大きな流行が始まってしまうと、その終息までには長期間を要することも特徴である。

我が国においても、1998～1999 年に MSM の中での A 型肝炎の大きなアウトブレイクがあったが、全国各地での流行が終息するまでには長い期間を必要とした¹⁾。また近年も、台湾での大規模な流行²⁾、欧州や米国での流行³⁾などの報告もあり、A 型肝炎は MSM における重要な性感染症の一つと考えられるようになっている。

本研究では、行政担当や NPO との連携によって、MSM における A 型肝炎アウトブレイクへの緊急対応を行った。性感染症の流行する環境は時代とともに大きく変化してきており、その多くの情報が、雑誌、ウェブページ、SNS 等で、より広く急速に発信されるようになっている。従って、今回の A 型肝炎の対策を進める中では、現代の環境に合った情報提供法を確立するために、医学的情報や予防方法などを、より迅速にハイリスク層へ伝える方法を検討した。

性感染症の流行拡大への緊急対応としては、情報伝達の迅速性が重要な課題であった。その一方で、便を介して性行為で感染するという A 型肝炎の情報を伝える際には、ゲイバッシングにつながるリスクも念頭におき、ハイリスク層へ集中して情報が流れるような配慮も必要とされた。従って、この A 型肝炎の流行対策においては、一般的な感染症の流行への対応以上に、現場コミュニティと繋がっている NPO 等との密接な連携が重要なポイントとなった。自治体からエイズ拠点病院や保健所・検査所への情報提供だけでなく、各 NPO 団体が積極的に行政の対策に参加した啓発がなかったとしたら、このような性感染症の流行への対策を行うことは不可能であった、ということを改めて強調したい。

E. 結論

本研究では、東京を中心とした MSM の、A 型肝炎の流行への緊急対応を行った。その計画を進める中で、行政担当者、保健所、そして各 NPO 等との協力によって、医学的情報や具体的な感染予防策などを、より迅速にハイリスク層へ伝える方法を検討することができた。対象に合った情報をまとめたチラシ等の作成、ホームページ・スマホアプリ・SNS 等を利用した情報拡大など、今回の対策によって確立された啓発方法は、MSM における今後の性感染流行にも役立つものとなるはずである。

【参考文献】

- 1) 武市朗子 他. 男性同性愛者における急性 A 型 肝炎の流行についての検討. 感染症誌 74 : 716~719, 2000
- 2) Nan-Yu Chen et al. Clinical characteristics of acute hepatitis A outbreak in Taiwan, 2015-2016: observations from a tertiary medical center. BMC Infect Dis. 2017; 17: 441.
- 3) Hepatitis A outbreaks mostly affecting men who have sex with men - European Region and the Americas.
<http://www.who.int/csr/don/07-june-2017-hepatitis-a/en/>

F.健康危険情報

なし

G.研究発表等

1. 論文発表

- 1) Kato H, Imamura A. Unexpected Acute Necrotizing Ulcerative Gingivitis in a Well-controlled HIV-infected Case. Intern Med 2017. 56: 2223-2227.
- 2) 田中勝, 柳澤如樹, 福島一彰, 佐々木秀悟, 今村顕史, 味澤篤. 抗 HIV 薬と抗がん剤の併用療法が奏功した extracavitary primary effusion lymphoma を合併した HIV 感染者の 1 例. 感染症学雑誌 2017. 91: 411-415.
- 3) Masanori Furuhashi, Naoki Yanagisawa, Shingo Nishiki, Shugo Sasaki, Akihiko Suganuma, Akifumi Imamura, Atsushi Ajisawa: Severe Thrombocytopenia and Acute Cytomegalovirus Colitis during Primary Human Immunodeficiency Virus Infection. Intern Med 2016. 55(24): 3671-3674.
- 4) 錦信吾, 柳澤如樹, 佐々木秀悟, 関谷綾子, 関

谷紀貴, 菅沼明彦, 味澤篤, 今村顕史: KICS が疑われ, 抗 HIV 療法にて改善を認めた HIV 感染者の 1 例. 感染症学雑誌 2016. 90(4): 512-517.

5) 福島一彰, 柳澤如樹, 佐々木秀悟, 関谷綾子, 関谷紀貴, 菅沼明彦, 味澤篤, 今村顕史: 眼症状を契機に梅毒と HIV 感染の合併が判明した 3 例. 感染症学会誌 2016. 90(3): 310-315.

6) 今村顕史(HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班): 抗 HIV 薬の副作用. 抗 HIV 治療ガイドライン 2016; 70-83.

7) 嶋根卓也, 今村顕史, 池田和子, 山本政弘, 辻真理子, 長与由紀子, 大久保猛, 太田実男, 神田博之, 岡崎重人, 大江昌夫, 松本俊彦. DAST-20 日本語版の信頼性・妥当性の検討. Jpn.Alcohol & Drug Dependence 2015. 50(6), 310~324.

8) 今村顕史:処方教室 : HIV 感染症 The Journal of Recipe 2015. 14(3):3-9.

9) Yanagisawa N, Suganuma A, Imamura A, Ajisawa A, Ando M. Comparison of cystatin C and creatinine to determine the incidence of composite adverse outcomes in HIV-infected individuals. J Infect Chemother 2015. 21(2): 84-89.

2.学会発表

1) 今村顕史.梅毒啓発を利用した新たな HIV 受検奨励法についての検討. 日本エイズ学会、2017 年、東京.

H.知的所有権の出願・登録状況 (予定を含む)

①特許取得

なし

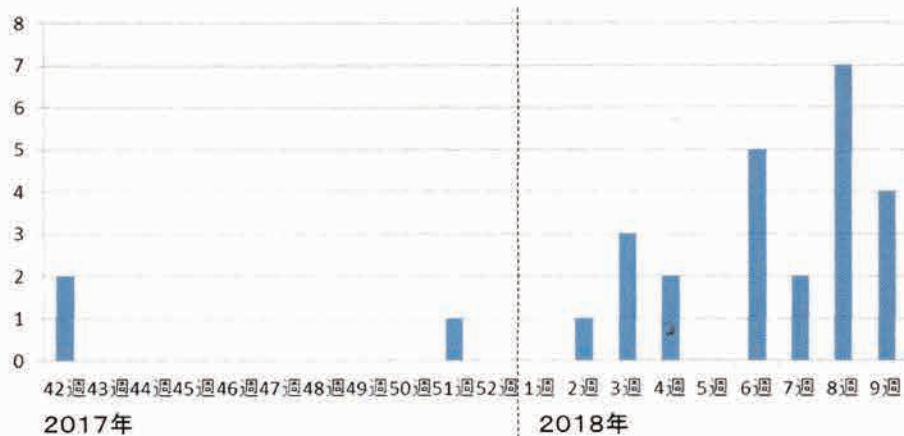
②実用新案登録

なし

③その他

なし

(図1) 東京都におけるA型肝炎の流行状況 <保健所受理の届出件数>



(図2) 東京都の拠点病院へのA型肝炎の流行情報に関する啓発チラシ

性行為を原因とするA型肝炎患者が増えています！

2018年に入ってから東京都内におけるA型肝炎患者の割合が、発症原因で性行為を感染源とする割合が、すでに昨年1年間の半数を超えています。

A型肝炎って？

A型肝炎ウイルスは非常に感染力が強く、汚染された食物、水などを経口から吸入し、肝臓で増殖して急性肝炎を引き起こします。
ウイルスは、症状が出る前から出てからしばらくは便に排出されます。特効薬はありません。症状に応じて治療法のみです。

主な症状：食欲不振、全身の倦怠感、食欲不振、嘔吐（発熱に似た症状）
↓
特徴：悪化して劇症肝炎や肝不全になること
症状が続く場合は医師に相談を！！

注意ポイント！

口交を介して感染するため、リミング（肛門周囲をなめる行為）やアナルセックスなどの性行為でも感染します。
○症状が治癒しても、人に感染させることがあります。

予防が大切！

十分な手洗い
トイレの便器・洗面台・食事の皿などには、石鹸と流水で十分なすすぎ
ワクチンも有効
接種については、医師と十分相談を

（参考）国立感染症研究所HP、東京都感染症情報センターHP

東京都保健医療庁健康増進課
東京都感染症対策センター
東京都感染症対策センター（東京都健康増進センター）

(図3) 東京都の拠点病院へのA型肝炎の流行情報に関する啓発チラシ



(図4) 【HIVマップ】A型肝炎に関する情報ページの作成

